

健康 ぷらざ

りよく ない しょう

緑内障に注意

— 早期発見のヒントと治療 —

指導：金沢大学医学系眼科学教室 教授 杉山 和久

企画：
日本医師会

No. 492

初期段階で気づくのは 難しい病気

緑内障は日本における失明原因の第1位を占めており、40歳以上の20人に1人の割合で患者さんがいる病気です。その症状としては、ものを見ているときに見えない場所(暗点)が出現したり、あるいは見える範囲(視野)が狭くなるのが一般的です。

しかし多くの場合、初期の段階では症状を自覚できず、病気がかなり進行して視野が欠けたり視力が悪化してから気づくケースが多くみられます。



こんな症状に注意

緑内障には40代以上に多くみられる慢性緑内障と、突然発症して急激に悪化する急性緑内障の2種類があります。

視野欠損がゆるやかに進行していく慢性緑内障では目立った自覚症状はありませんが、

見たいものが見えない

ものが欠けて見える

などの症状がある人は注意が必要です。

急性緑内障は主に夕方から夜半にかけて、急激な目の痛みと視力低下、目の強い充血、吐き気、頭痛などの症状が出ます。

治療は医師と患者で 話し合いが大切

緑内障のバロメーターといえるのが眼圧(目の硬さ)ですが、高くなった眼圧を下げるために点眼薬による薬物療法を中心とした治療が行われます。眼圧が上がらない「正常眼圧緑内障」でも、眼圧を下げることで症状の進行を食い止められる場合があります。

いずれも、最初に医師と患者さんと、その人に合った治療法や薬剤について、よく話し合うことが大切です。

緑内障は怖くない

緑内障は失明に至る怖い病気として知られてきました。しかし現在では、早期に発見し治療を受けていれば、ほとんどの場合で失明に至ることはありません。40歳を過ぎたら、定期的に眼科専門医の診察や視野検査を受けるようにしましょう。